

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32604

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23113

研究課題名（和文）度量衡から見るベトナムの植民地統治及び社会構造とその地域性

研究課題名（英文）The Colonial Rule and the Social Structure in Vietnam and their Regionality from the Perspectives of weights and measures

研究代表者

関本 紀子（SEKIMOTO, Noriko）

大妻女子大学・文学部・講師

研究者番号：90847237

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、フランスによるベトナム植民地統治の実態、植民地期ベトナムの社会構造や地域性について、度量衡（計量器、計量単位）の観点から分析・解明するものである。17世紀から植民地時代にかけて各地で刊行された古辞書の中にみる計量単位の事例を丹念に収集することで、民間の中での度量衡運用の実態をより実証的に捉えるとともに、地域性についても明らかにした。また、植民地期の社会構造や地域間結合について、度量衡の地域差とも密接に関係する物価および交通ネットワーク形成にも視点を広げ、検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で得られた成果は、植民地社会経済構造や度量衡に関する研究だけでなく、これまで本格的に用いられてこなかった古辞書の社会経済史研究への応用の可能性や、資料的制約が大きかった商業統計上の物価データの活用方向性を提示できたことが大きい。また、北部ベトナム地域内における地域間結合を交通の側面から実証的に分析した点も、あらゆる研究領域に対して相互に検討が可能な知見を提示できたと考える。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes the actual situation of French colonial rule in Vietnam and the social structure and regional characteristics of colonial Vietnam from the perspective of weights and measures. By carefully collecting examples of units of measurement found in old dictionaries published in various regions from the 17th century to the colonial period, this study empirically explores the reality of the operation of weights and measures in the private sector, as well as the regional characteristics. The social structure and inter-regional connectivity of the colonial period were also examined, expanding the perspective to include the formation of commodity prices and transportation networks, which are closely related to the regional differences in weights and measures.

研究分野：人文学

キーワード：ベトナム 度量衡 計量 植民地 社会経済史

1. 研究開始当初の背景

本研究は、フランスによるベトナム植民地統治の実態、植民地期ベトナムの社会構造や地域性について、度量衡(計量器、計量単位)の観点から分析・解明するものである。フランスの対ベトナム植民地統治はいままで局地的・部分的なものであったとされるが、具体的な事例から実証的に検討されていない。また、植民地社会の構造や地域性については、植民地政権により区分された行政区画の枠組みの中で、異なる研究分野によって個別に研究が進められてきた。本研究では、これまでの研究史の限界に対して、植民地政権の行政区画の枠を超え、ベトナム一国を同じ比較軸(度量衡)で検討するという新しい手法でアプローチする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、度量衡(計量器、計量単位)の観点から、ベトナム植民地統治のあり方や社会構造・地域性を実証的に明らかにすることにある。本研究では、これまで研究対象としてきたベトナム北部の度量衡の事例および研究手法に基づきながら、対象を中南部へ広げる。また、植民地期以降のベトナムの度量衡の状況、法的規制などについても調査・検討する。こうした検討は、資料の制約上検証が難しい植民地期末の度量衡の状況を捉える傍証となる。

このように考察の範囲を広げながら、度量衡という具体的な事例からアプローチすることで、植民地期ベトナムの政治・経済・社会の構造やその地域差、時系列変化まで実証的にとらえることが出来る。さらに、本研究で得られた知見は、関連する様々な学問分野(物価、交通ネットワークなど)に対しても広く還元できると考える。

3. 研究の方法

本研究を始めた当初は、フランスによる植民地統治の実態や度量衡政策の特徴をより客観的に捉えるため、ベトナム以外のフランス植民地における度量衡政策の動向も調査すること(主にフランス国立図書館、海外文書館など)を予定していた。また、ベトナムの植民地社会構造や地域性の分析を行うため、ベトナムの各国立文書館(在ハノイ、ダラット、ホーチミン市)での資料収集に加え、ベトナム中南部、特にホーチミン市における文献収集やアンケート調査、インタビュー調査なども計画していた。さらに、フランス植民政府専売制産品(塩、酒、アヘン)の度量衡の分析も想定していた。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大およびロシアのウクライナ侵攻などの影響により、計画の変更を余儀なくされた。

そのような状況の中、実行可能な調査やこれまで長年にわたり収集してきた資料および今回新規に開拓した資料の整理・分析を行った。具体的な研究方法は以下の通りである。

(1) ベトナムの植民地社会構造及び地域性について

第一に、北・中・南部の地域性を、行政区画の枠を超えて客観的に比較・検討する。そのため、植民地期及びそれ以前に刊行された、各地域における古辞書を収集し、その中の度量衡(計量単位、計量器の語彙)の事例を丹念に収集し、整理する。それにより、各地域特有の単位が存在および普及した時期について明らかにする。

第二に、フランス植民政府専売制産品(塩、酒、アヘン)の度量衡の分析に先立ち、まずアヘン政策とアヘンから見る社会構造について、東亜同文会関係の刊行物・資料などを使用し、明らかにする。

第三に、植民地期における経済・社会構造を検討するうえで、各地域における物価変動やインフラ整備・ネットワーク構築の過程を検証することは必要不可欠なことである。そのため、これまで収集してきた資料を用いて、米価の変動分析や交通ネットワークの構築と地域間結合について明らかにする。

(2) 植民地期以降のベトナムの度量衡の状況、法的規制について

植民地以降の度量衡法規に関する文献資料、国定教科書「算数」の中に記載されている度量衡関連の資料、民間において常用されていた計量器・計量単位についての文献資料をベトナム国家図書館およびホーチミン市総合社会科学図書館などで収集する。それにより、植民地期後期の状況をさかのぼって捉えるだけでなく、まだ明らかとなっていない植民地期以降のベトナムの度量衡の運用状況も把握する。

4. 研究成果

(1) ベトナムの植民地社会構造及び地域性について

古辞書における度量衡関連語彙の研究

本研究は、外国人宣教師によって編纂された辞書3部(発行年の範囲1651~1838年)およびベトナム人文人官僚・行政官による辞書3部4冊(発行年の範囲1827~1896年)の計6部7冊を対象とし、その中に収録されている計量に関する単位名を丹念に収集し、それらを比較・検討したものである。17~19世紀に活動していた宣教師およびベトナム人の文人官僚が編纂した辞書は、希少な同時代資料である。これら辞書の中には、ベトナムで現存する最古の辞書であるアレクサンドル・ド・ロードの『ベトナム語・ポルトガル語・ラテン語辞典』(1651年)や、ベト

ナム人自身による最古の辞書であり、南部の語彙も収録している『大南國音字彙』（2巻、1895～1896年）も含まれる。イエズス会やパリ外国宣教会の宣教師たちが収集した語彙、および文人官僚というベトナム人自身が項目として設けた語彙の蓄積を重ね合わせることで、公式度量衡制度ではなく、民間の中での度量衡運用の実態をより実証的に捉えることを可能とした。

こうした検討を通して、黎朝期（1428～1789年）から阮朝期（1802～1945年）にかけて実際に民間で使われていた度量衡の単位について、古辞書の中にみえる度量衡関連語彙から明らかにし、それぞれを整理・比較するだけでなく、そこから見える地域性についても検討した。その結果、植民地期に知られていた中南部特有の単位の存在を1772年発行の宣教師ピニョー・ドゥ・ペーヌによって編纂された『ベトナム語・ラテン語辞典』などの辞書の中に確認できた。植民地期以前の辞書も対象とすることで、これまで明らかとなった植民地期のベトナムの社会構造、地域性がいつ頃から確認されるものか、それが植民地期に継承・維持されたのかについて新たな知見を得られた。

本研究は、度量衡についての分析に止まらず、それぞれの編纂者の活動していた地域や時代による収集語彙の差異に着目することで、地域差や編纂者の現地理解に対する検討も行うことが出来た。ベトナムの古辞書を用いた研究としては、語彙や表記、発音などに関しては進められてきたが、社会・経済の特定のテーマの語彙に注目し、歴史学的に比較・検討されたものは管見の及ぶところ見られない。そのため、こうした古辞書を用いた研究の可能性も、様々な分野に対して示すことにもつながった。

アヘンについての研究

日本においては、植民地期ベトナムの専売制の産品に関する研究が少ないため、第一に東亜同文会関係の刊行物・資料を対象に仏領インドシナのアヘンについての基礎研究を進め、度量衡からのアヘン研究への研究土台を築いた。東亜同文会資料に基づき、アヘンの生産、輸送、流通、アヘン企業から小売り・消費の現場までを概観し、これまで明らかになってこなかった隠されたアヘン貿易（土貨名や税関を通さない輸送ルートの詳細など）、鉄道によるアヘン輸送の概要及び地域差の一端を明らかにすることが出来た。

第二に、アヘン政策・法整備とその効果について、植民地化される前の阮朝期と、フランス統治時代について分析を進めた。研究成果としては、阮朝とフランス植民地政権によるアヘン政策は、互いに性格は異なるものの、政策や法整備に「建て前」と「本音」が相矛盾しながら同時に存在する構造であったことを実証的に明らかにしたことが挙げられる。こうした政策上の矛盾は、筆者が長年取り組んでいた度量衡に関する政策上でも確認されており、度量衡とアヘン双方向で事例が確認されたことになる。

物価変動やインフラ整備・ネットワーク構築についての研究

これまでの研究で、度量衡の地域性は物価変動や交通アクセスの有無に関する地域差と強い関連性があることは予想されている。しかし、各地方の行政単位である省（日本の県）レベルの物価変動や交通網の形成を実証的に検証された研究は、管見の及ぶところ見られない。そのため、度量衡の地域性をさらに検証するため、物価変動分析や交通ネットワークの地域間結合について明らかにする必要性が生じ、これまで長年かけて収集した資料を基に北部地域についてまとめた。

フランス領インドシナにおける物価変動分析に関しては、これまで資料の制約上研究が難しいとされてきた地域である。しかしながら、物価研究は社会経済史の基本でもあり、現状の中で可能となる方法論を模索することも重要なテーマとなる。こうした研究史上の問題点も踏まえ、第一に、現在入手可能な各省別の物価データについて、その範囲とそれぞれの問題点、利用可能性を整理した。さらに、米価変動に影響を与えと思われる諸要因についてまとめた。その上で、ベトナム国家第一文書館に所蔵されている各省が総督府、および農業省に提出した商業統計（Statistiques commerciales、一部の統計ではmercureiale:公設市場価格表）の中に記載されている米価を対象とし、北部ベトナム全体の米価変動の特徴について分析した。特に平均値との比較を通じて、米価の高低、変動の大きさなどに着目し、その傾向を分析した。具体的には、時系列での全体的変動の特徴としては、1900～1904年では上昇傾向、1907～1912年は安定傾向、1913～1918年は短期的変動傾向がみられた。地域性としては、デルタ地帯とそれを取り囲む高原地帯は安定型か平均的米価、都市部や国境に近い山岳地帯は高値あるいは不安定（変動型）で推移する傾向が、各省月別のデータにより観察された。欠損値の問題や、データ読み取りの妥当性については検証の余地が残るが、多くの課題を抱えながらも、ある程度米価変動の傾向や地域的差異を指摘することができたことは、これら米価の活用が有効であるとの可能性を示唆している。

第二に、米作の栽培及び交通インフラ整備状況と、米価変動を総合的に検討し、各省における米作の実態及び交通の果たす経済的影響を明らかにした。20世紀初頭における仏領インドシナの物価、米作及び交通インフラ活用の実態は、具体的には明らかになっていない。米作に関しては、全国的・網羅的な調査が始まるのは1920年以降であり、それ以前の各省における米作の状況についての史料は断片的なものに留まっている。また、交通に関しても、交通政策やインフラ整備の状況はある把握できるが、実際にその交通インフラがいかに機能していたのか、活用されていたのかについては、史料の制約上明らかにされていない。そこで、前述した米価変動分析の結果に基づき、さらに各省別の米の栽培状況（一期作、二期作）と交通インフラ整備の状況を照らし合わせることで、より詳細な米価変動の特徴を捉えることを目的とした。同時に、各省の米

作環境や交通網の状況もふまえて、米作の実態や交通網の拡大・発展が地域社会に与えた影響についても分析した。

その結果、米価変動の類型として、二期作型は、低デルタでも中部ベトナムよりの各省とハノイ近郊の西部、北部に分布、安定型は、低デルタでもよりハノイに近い各省と、ハノイ近郊（特に東部）、ハノイ以北では紅河・鉄道路線沿いの各省とトンキン北部に分布していた。一期作型は国境沿いのハザン 1 省のみであり、不安定型は国境沿いとハノイ北東部に分布していた。これらの類型と交通アクセスの状況を合わせて検討し、相互補完的にこれらの地域的分布の背景を明らかにした。また、古くから物流の中心であった水運だけでなく、フランス主導によって建設された鉄道も米価の平準化に大きな役割を果たしており、地域経済への貢献・影響は大きかったことなどを具体的に明らかにできた。

第三に、フランス植民地期北部ベトナムにおける交通インフラ整備の進展と、それに伴う地域間結合の過程を明らかにした。これは既述の米価分析と合わせて、その地域性を検討するための補完的な位置づけを持つ研究である。対象とする年代は、フランス植民地政権によって本格的な交通インフラ整備が開始された第 1 回植民地開発プログラムの時期（1897 から 1918 年）とし、宗主国により進められた公共事業の、現地の地域経済社会へ副次的に与えた影響を明らかにすることも目的とした。まず、水運網主体の交通網に鉄道・道路網が加わり、各地のネットワークが強固に形成されてきた状況を実証的に明らかにした。さらに、それぞれの輸送モードの輸送内容（輸送品や長・短距離輸送の傾向など）およびハノイ以北の各河川の航行可能性・時期・範囲も具体的に明らかにした。そのうえで、第一に線形的結合（鉄道路線）によって強く結びついていたのは、ハノイ・ハイフォン・中国国境間であり、この線上のつながりは、主に宗主国による利益を追求するために用いられていたこと、第二に、面的結合がみられたのは紅河デルタ地帯であり、この地域は主に水運と鉄道路線が敷設された地域によって結びついており、域内経済への貢献も米の輸送面から確認されたこと、第三に、点と点による局地的な結びつきに限定されていたのが、山間部および高原地帯であり、この地域は水運も発達しておらず、鉄道路線上に分布する地域もその輸送規模は小さく、どの地域とも弱い結合に留まっていたことなどを実証的に明らかにした。

（２）植民地期以降のベトナムの度量衡の状況、法的規制について

計量検定による地域差の把握

ベトナム国家図書館（ハノイ）およびホーチミン市総合社会科学図書館にて、度量衡関係の資料収集を行い、主に 1960 年代から現在までの度量衡法規（国全体だけではなく、各省における規定の資料、特に首都ハノイおよび近郊の省）や、民間において常用されていた計量器・計量単位についての文献資料を収集した。現在収集済みの資料の解読を進めているが、今後引き続き資料開拓を行うことで、それぞれの地域における法規の時系列変化や、地域による法規の差異の有無などを検討することが出来ると考えている。

国定教科書の中の度量衡

初等教育における度量衡教育の資料を収集した。数年前に国定教科書の法規が改正され従来国営の出版社のみが許可されていた教科書の発行が 4 社の出版社に拡大されたため、それら新教科書の一部を入手した。また、歴史的な変遷を考察するため、ベトナム国家図書館において歴代の初等教育の国定教科書（主に 1980 年代）を閲覧・収集した。現在、それら資料の整理を行っている。1970 年代およびそれ以前の教科書は図書館の蔵書整理の関係で閲覧できなかったため、今後それらの年代の教科書を収集することにより、度量衡教育の時代別変化を明らかにしていく予定である。

インタビュー調査

現在使用されているベトナムの慣習的計量単位について、ベトナム・ハノイ市内のハノイ国家大学内で 2020 年 2 月にアンケート調査を行った。現地では、新型肺炎対策の一環として、原則国公立の教育機関は休校となっており、また日本人と接触することを避ける傾向があったため、当初の規模でのアンケート調査を行うことは難しかった。そこで、大学構内にいた学生へのランダムなアンケート調査及び受け入れ機関であるベトナム学・科学発展院内における研究員へのインタビュー調査に切り替え、調査を行った。その結果、アンケート調査内容に関しての情報のみならず、ベトナム人にとって理解しにくい箇所、誤解を招きやすい箇所など、調査票の修正すべき点を明らかにすることができた。また、研究員たちから、ベトナムにおける度量衡全般に対して、あるいは地方における事例についてなど、それぞれの専門から情報提供を受けた。今後は上記調査によって得られた知見に基づき、より効果的にインタビューおよびアンケート調査が行えるよう調査票を再度作成するとともに、規模を拡大して北部ハノイだけでなく、中南部でも行うことを検討している。

研究成果は以上の通りであるが、最も特筆すべき成果は、最初に挙げた古辞書の中の度量衡の事例である。当初予定していた中南部へ研究対象を広げることにも可能となり、度量衡研究の側面だけでなく、これら古辞書の社会経済史研究への応用の可能性についても提示できたことは、非常に大きな貢献と考えられる。古辞書研究における今後の課題としては、ベトナム人の編纂した現存最古の辞典である『指南玉音解義』（1761 年）、ハンノム研究院所蔵）および現代ベトナム語・各種辞典の基礎となっている開智進徳会編『越南字典』（1931 年）などについても分析の枠

を広げることで、民間で使用されていた計量単位の理解をさらに発展させることができると考える。

社会・経済史研究への貢献といえば、資料的制約が大きい植民地期の物価史研究に対しても、商業統計上の米価データの活用の方角性を提示できたこと、北部ベトナム地域内における地域間結合を交通の側面から実証的に分析した点も、あらゆる研究領域に対して相互に検討が可能な知見を提示できたと考える。これらは本研究の主軸である地域性、植民地期ベトナムの社会構造を度量衡の側面から実証的に明らかにすることにつながっている。今後もこれらの研究をさらに深化させ、互いを関連付けながら検証することで、より精度の高い結果を導き出せると考える。

植民地期という研究対象年代以外の時代に関する資料収集及び調査については、資料の少ない植民地期後期の状況を遡って捉えることが出来るだけでなく、ベトナムにおける度量衡制度、度量衡法の内容と民間での運用状況といった、これまで明らかにされてこなかった側面も多面的に検討することが出来る。初等教育におけるベトナムの度量衡教育の内容・変遷、各省における度量衡関連法の内容と時系列変化、現在に継承される民間における慣習的計量単位用語など、引き続き調査を行い必要資料を補充しながら、順次発表していく予定である。資料収集や調査を実際に行うことが出来たことで、今後のベトナム度量衡研究の展望・課題も明らかになった。

<引用文献>

関本紀子、「ベトナムの古辞書に見える度量衡関連語彙」、計量史研究、45 巻 1 号、2023、40 61

関本紀子、「仏領インドシナのアヘン：東亜同文会関係刊行物および資料からの考察」、コミュニケーション文化論集、18 号、2020、45 64

関本紀子、「フランス領インドシナのアヘン」、『アヘンからよむアジア史（アジア遊学 260）』、2021、内田知行・権寧俊編、56 - 72

関本紀子「仏領期北部ベトナムにおける米価：米価決定要因と米価変動の傾向」、コミュニケーション文化論集、21 号、2023、21 52

関本紀子「仏領期北部ベトナムの米作状況と交通インフラ整備から見た米価変動」コミュニケーション文化論集、22 号、2024、47 79

関本紀子「フランス植民地期北部ベトナムにおける交通ネットワークの形成と地域間結合：第 1 回植民地開発プログラム（1897 1918 年）を中心に」、経済研究、11 号、2023、1 - 40

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 関本紀子	4. 巻 45(1)
2. 論文標題 ベトナムの古辞書に見える度量衡関連語彙	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 計量史研究	6. 最初と最後の頁 40-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関本紀子	4. 巻 18
2. 論文標題 仏領インドシナのアヘン：東亜同文会関係刊行物および資料からの考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 コミュニケーション文化論集	6. 最初と最後の頁 45-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 関本紀子	4. 巻 21
2. 論文標題 仏領期北部ベトナムにおける米価：米価決定要因と米価変動の傾向	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 コミュニケーション文化論集	6. 最初と最後の頁 21-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 関本紀子	4. 巻 22
2. 論文標題 仏領期北部ベトナムの米作状況と交通インフラ整備から見た米価変動	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 コミュニケーション文化論集	6. 最初と最後の頁 47-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 関本紀子	4．巻 11
2．論文標題 フランス植民地期北部ベトナムにおける交通ネットワークの形成と地域間結合：第1 回植民地開発プログラム（1897 1918年）を中心に	5．発行年 2023年
3．雑誌名 経済研究	6．最初と最後の頁 1-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1．発表者名 関本紀子
2．発表標題 ベトナム度量衡研究について
3．学会等名 日本計量史学会（招待講演）
4．発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1．著者名 内田知行、権寧俊、大久保翔平、関本紀子、杉本浄、崔学松、朴敬玉、堀井弘一郎、小林元裕、真殿仁美、武田淳	4．発行年 2021年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 256
3．書名 アヘンからよむアジア史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------